ドイチェ バンク(DB)

【セクター】 金融　信買

【市場】 NYSE

【企業概要】

ドイチェ・バンクは、1870年設立のドイツ・フランクフルトに本社を置く多国籍投資銀行です。世界58カ国で事業を展開し、コーポレートバンク、投資バンク、プライベートバンク、アセットマネジメントの4セグメントで運営。企業、政府、個人向けに融資、資産運用、リスク管理などの金融サービスを提供。持続可能性やESGにも注力し、経済成長と社会進歩を支援。フランクフルト証券取引所とニューヨーク証券取引所に上場し、DAX指数の構成銘柄。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ユーロ、EPS、1株配当、BPSはユーロ、ROE、自己資本比率は%、売上高、純利益、EPSは調整後ベース）

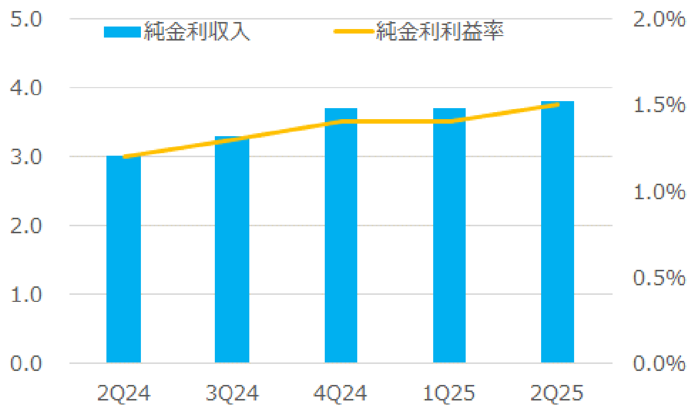
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
23.12期	28,900	4,212	2.04	0.45	31.6	6.7	5.7
24.12期	30,092	2,698	1.32	0.68	33.4	4.1	5.7
25.12期（予）	31,537	5,768	2.88	1.00	34.2	8.3	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）会社資料、BloombergのデータよりSBI証券作成

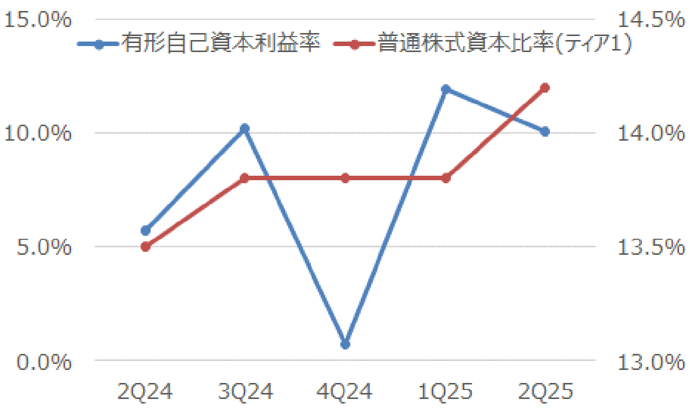
【主要指標】

純金利収入(億ユーロ、左)と純金利利益率(%、右)



（出所）会社資料よりSBI証券作成

有形自己資本利益率と普通株式資本比率(ティア1)



（出所）会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

7月24日に発表された2025年第2四半期(4-6月)業績は、収入が前年同期比3%増の78億ユーロ(市場予想76.9億ユーロ)。前年のポストバンク買収関連の法的引当金の反動で税引前利益が同5.9倍の24.2億ユーロ(同20.8億ユーロ)。市場予想を上回る営業費用の削減と好調な債券トレーディング収入が寄与した。一方、近年強化してきたM&A(企業の合併・買収)助言や資金調達支援などの投資銀行業務による収入は同29%減少しました。不確実性の高い環境下、債券や株式の発行を見送る企業が増えました。

【見通し・注目点】

同社は2025年は野心的な収益目標を設定しています。会社側は第2四半期の業績を受け、「25年の目標達成に向けて順調に進んでいる」と強調しました。投資銀行業務について、案件の回復には全体として予想以上に時間がかかっているものの、同部門への投資を継続する方針を示しました。また、普通株式資本比率(ティア1)の改善により、同社は自社株買いの許可を欧州中央銀行(ECB)に申請したことをあらためて明らかにしました。今後、自社株買いによる株価の押し上げも期待できそうです。

（SBI証券　投資情報部　潘　碩朋）

（更新日 2025/8/8）

本レポートに関するご注意事項

・ご紹介する個別銘柄及び各情報は、投資の勧誘や個別銘柄の売買を推奨するものではありません。
・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります（信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD（くりっく株365）では差し入れた保証金・証拠金（元本）を上回る損失が生じるおそれがあります）。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。

株式会社SBI証券　金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第44号、商品先物取引業者
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本STO協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人日本暗号資産等取引業協会